

お茶屋屋敷(御茶屋御殿, 御茶屋)(県史跡)(大垣市赤坂町)

お茶屋屋敷(おちゃや やしき)は、江戸時代に五街道に整備された将軍家の宿泊施設。または大名の宿泊・休憩施設。御茶屋御殿(おちゃや ごてん)、また単に御茶屋(おちゃや)ともいう。

ここでは最も大規模といわれる、岐阜県大垣市のお茶屋屋敷に関して記述する。このお茶屋屋敷は宿場の本陣の原型となったものという。

中山道赤坂宿の西に設置されている。

沿革・概況

- 1600年(慶長5年)、関ヶ原の戦いの後、徳川家康は全国主要街道の整備にとりかかる。
- 1609年(慶長14年)、徳川家康が上洛する際、中山道の要衝で、徳川家開運の地であるお勝山の北方に、自らが上洛の往復をするにあたっての宿泊施設お茶屋屋敷を設置する。設置は美濃国の諸大名に命じ、岐阜城の稲葉山(金華山)山麓に存在した、織田信長の住居、千畳敷御殿など61棟を移築させたという。廻りには土塁や空壕が設置され、宿泊施設であると同時に緊急時の砦、城郭の要素もあったという。
- 宿場の整備とともに必要なくなり、寛永年間(1624年～1644年)に建物は取りこわされる。
- 1976年(昭和51年)、屋敷跡が岐阜県の史跡に指定される。

現在

- 土地は廃藩置県のとて、不破郡赤坂村(現大垣市赤坂)名主に払い下げられ、現在は個人所有である。
- 土塁や空壕の一部が現存する。
- 跡内には数多くのぼたんが植えられ、通称「赤坂ぼたん園」としてボタン開花時期公開されている。東海地方有数のボタン園であり、開花期は四月の下旬から五月初旬。

Wikipedia による

